

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育型児童デイ クライムアップ		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 1日		R7年 2月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	R8年 2月 1日		R8年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な運動器具を活用し、楽しみながら基礎体力を伸ばせる環境が整っている。	視覚的支援や繰り返しの活動を取り入れ、成功体験を積み重ねられる支援を行っている。	自己肯定感を高め、次のステップにつながる支援を強化していく。
2	活動にルーティンを取り入れ、見通しをもって行動できる力を育んでいる。	スケジュールを明確にし、子どもが安心して主体的に動ける環境づくりをしている。	将来を見据えた自立支援の視点をより一層取り入れていく。
3	同年代の子どもが多く、自然なかかわりの中で社会性を育てられる環境がある。	ペア・集団活動を取り入れ、コミュニケーション力の向上を図っている。	将来性や協調性を育てる活動を更に充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動以外の活動の幅を更に広げる余地がある。	運動療育を軸にしているため、静的活動や創作活動などの幅がやや限定的になっている。	運動に加え、創作・感覚遊び、SSTなど多様なプログラムを段階的に導入し、活動の選択肢を広げていく。
2	一人一人により細やかに対応する体制の強化が必要。	集団活動を中心に行う中で、個々の課題へのより細やかなアプローチに工夫の余地がある。	アセスメントの見直しと職員間の情報共有を強化し、個別目標に沿った支援の質を高めていく。
3	活動内容や成長の様子をより分かりやすく発信していく必要がある。	日々の成長や取り組みの意図が十分に伝わり切っていない部分がある。	活動の狙いや、写真付きの報告や具体的なエピソードの共有をさらに増やし、支援の狙いが伝わる発信を行っている。